

作物生産学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 森田茂紀・名越時秀・平野繁

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

原則、英語文献を講読し、世界および日本における農業の課題と解決策に関する研究の現状と今後の展望、その基礎となる作物の形態学・生理学・生態学の体系について理解する。また、その過程で、研究の進め方についても学び、自分の研究の展開に役立てる。本演習は原則としてゼミ形式で行い、プレゼンテーションのスキル、議論の進め方、論文やレポートの作成方法についても身につける。同演習Ⅰから続く後半部分。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

農業生態系と作物栽培 作物の形態・生理・生態 生育診断と生育調節 土壌環境と根の生態学
バイオマスの利用方法 研究計画・実施・解析法 論文・レポート作成法 プレゼンテーション法

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	授業の進め方 (第1週)	・授業の進め方を説明し、テキストを選定するとともに、分担を決める。	・担当部分の紹介・解説の準備を始める。
2	文献講読 (第2～14週)	・参加者が順次、担当部分の紹介・解説を行い、それに基づいて議論する。	・毎回の該当部分を読んでおくことと、担当部分の紹介・解説の準備を行う。
3	授業の整理 (第15週)	・授業の取りまとめを行い、レポート作成を含め評価方法について伝える。	・最終レポートの作成

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

第1回の授業で、相談のうえ、英語文献 (原則として書籍) を選定する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

作物学・栽培学の教科書、事典・用語集・図鑑などの参考図書、研究方法に係る解説書 (適宜、紹介する)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

担当部分の発表・資料・議論などを総合的に評価する。

◆オフィスアワー

原則として火曜日と木曜日の昼休みに研究室で対応する。その他、適宜、電子メールで連絡を取ること。

◆その他受講上の注意事項

毎回、十分に予習・復習を行ったうえで、授業中の議論の積極的に参加すること。